

共同研究グループ活動報告（2009年度）

日中関係史

09年度の活動は、とくに2学期は人文学研究叢書発行の準備に追われてしまい、低調に終わった。反省ばかりしても仕方がないが、10年度を期そうと思う。

研究・講演会

1. 5月18日、于臣（横浜国立大学人間科学部講師）講演
「実業家から見る“義・利・公・私”観念」
2. 5月25日、今井美樹・藤枝貴子 二胡とアルパ演奏会
3. 6月8日、島本雅喜（厚生労働省事務補佐官）講演
「中国残留日本人」から考える一支援の現場から」

人文学研究叢書発行準備

数年来、共同研究奨励助成を得、非文字資料研究センターの活動の一環として取り組んできた「中国・朝鮮における旧日本租界」研究の成果を1冊にまとめる作業を行った。中国、韓国の研究者の寄稿を得て、『中国・朝鮮における租界の歴史と建築遺産』と題する本が3月初御茶の水書房から公刊される。

（大里浩秋）

文化のかたち

活動内容：

メンバー各自で自身の研究対象においての調査・考察・講演活動等を進めていった。

また、7月24日には、関西外国語大学短期大学の吉村耕治教授をお招きし「日英の言語文化研究の楽しみ ―現代の文化交流を視野に入れて―」のテーマで講演会を開催した。また、2010年2月8日には、台湾の中国文化大学助理教授であ

る塚本善也氏に「ロシア・台湾・日本の文化交流をめぐって」のテーマで講演会を開催した。

来年度以降は、各自の成果報告を活発に行い、叢書『文化のかたち』第二弾を具体的に検討して行くつもりである。

（堤 正典）

西洋文化の受容 ――思想と言語――

1. テーマ：近代日本における西洋文化受容の総合研究
2. 代表者：鈴木修一
3. 活動内容：5年間をかけて読み続けてきた『明六雑誌』の成果を、本研究所叢書20号『明六雑誌』とその周辺――思想と言語』として出版した。（2004年度）

その後、新たに近代初期の洋学資料を読む計画をもっているが、本年度は休会という状態であった。

（鈴木修一）

各国地方史の比較的研究

今年度は下記講演会を行った。

1. 研究テーマ：世界史を、国家、民族、文明というレベルで考察するのではなく、地方史のレベルから見直すこと。
2. 代表：村井寛志
3. 活動内容：

これまで、主に中国史研究者と他分野の研究者の交流を中心に、年に数回の研究会を行ってきた。本年度は下記講演会を開催した。

【講演会】「中国残留日本人」から考える一支援の現場から―

【講演者】 島本雅喜氏（厚生労働省事務補佐員（通訳））

【日時】 2009年6月8日

（村井寛志）

東アジア比較文化研究会

研究会開催予定

日時：2月18日（木）16：30～

発表者：深澤 徹

「きつねたちは、どこからきて、どこへいくのか ―変換装置としての『三国相伝』―」

活動内容

休眠状態からの脱却をはかるべく、上記の研究会を開催した。

(山口建治)

色彩と文化

当研究グループは、2007年度奨励共同研究助成金を得（課題名「世界の色の記号に関する実証的研究―自然・言語・文化の諸相―」）、活動の本拠をそちらに移した。テーマもメンバーもほぼ重なっているため、「色彩と文化」の研究活動報告については割愛する。2010年度出版予定。

(人間科学部 三星宗雄)

言語変異研究

1. 研究内容：言語と社会の関係に関する総合的な研究、今年度は主に多言語社会の言語教育と言語政策を中心に活動を行った。

2. 代表：彭国躍

3. 講演会：

テーマ：「シンガポールにおける中国語教育と言語政策」

講演者：シンガポール南洋工科大学助教授 徐峰氏

日時と場所：11月30日 15：00～16：00
20号館 317B

(彭 国躍)

ジェンダー・ポリティクスのゆくえ

今年度は主に本共同研究グループのこれまでの

活動の成果をまとめて研究書として出版するための準備を行った。神奈川大学人文学研究叢書として出版する準備が現在順調に進められており、『ジェンダー・ポリティクスを読む 表象と実践のあいだ (*Reading Gender Politics: Between Representation and Practice*)』というタイトルで2010年3月に御茶の水書房より出版される予定である。

叢書の内容について討議するために以下の研究会を開催した。

第1回研究会

開催日：2009年3月23日（月）

会場：20号館英語英文学科共同研究室

発表者1：山口ヨシ子（外国語学部教授）

演題：「女性改革者たちの社会福祉ネットワーク アダムズ『ハルハウスの二十年』」

発表者2：村井まや子（外国語学部准教授）

演題：「やなぎみわ『フェアリーテール 老少女綺譚』 フェミニストおとぎ話研究の視点から」

第2回研究会

開催日：2009年7月6日（月）

会場：20号館英語英文学科共同研究室

発表者：笠間千浪（人間科学部教授）

演題：「英語圏における日本社会研究について：ジェンダー／セクシュアリティ研究を中心に」

(村井まや子)

コミュニケーション研究会

この研究会の活動は、神奈川大学共同研究奨励助成研究グループ『二重プロセス理論に基づく総合的な人間行動の理解とその応用に関する実験的研究』の活動と重複するため、そちらをご参照下さい。

(松本安生)

プランゲ文庫研究会

本学図書館が所蔵するプランゲ文庫新聞・雑誌

コレクションの共同研究を目指す本研究会は、4月初旬、プランゲ文庫の資料の利用のために新規導入されたコンピュータ関連の説明を受けたほか、以下、3回の研究会を開催した。

第1回 6月22日

【報告】

1. 神奈川大学学内研究助成の採択について
2. 今後の研究会運営について
3. プランゲ文庫とGHQ・SCAPIN文書の活用について（小林聡明）
4. 2009年10月、例会と講演会の開催について

第2回 10月19日

【報告】

1. 研究会運営について
2. 個別報告

「在日朝鮮人雑誌への検閲実態—『民主朝鮮』を中心に」小林聡明（日本学術振興会特別研究員）

「極東の『フロンティア』—米国人歴史家が語る冷戦期の琉球と台湾」泉水英計（神奈川大学経営学部）

第3回 2010年1月27日

1. 研究会運営について
2. 個別報告

「戦後の在日華僑とプランゲ文庫との関連を中心に（仮）」陳来幸（兵庫県立大学経済学部）

（孫 安石）

表象文化研究会

第1回研究会

日時 2009年7月29日（水）16：00～18：00

場所 17-216 人文学研究所

発表者 ① 鳥越輝昭

「ディエゴ・ヴァレーリとヴェネツィア表象史」

② 日高昭二

「交錯する表象—生田長江『円光』をめぐる絵画・小説・演劇—」

第2回研究会

2010年3月に開催予定

（山口ヨシ子）

活字文化研究会

本研究会は、日本語の活字文化普及促進のための人文社会学的視点からの新しい政策的提言を目指している。このための知見を得るため、今年度は国内外における日本語学習者の視点から日本語の活字文化に対する調査研究を行った。具体的には、海外日系人協会との協力のもとで、ブラジルやパラグアイなどの南米諸国の日系人日本語学校における日本語書籍の活用とその効果把握のための調査研究を開始した。また、国際ロータリーとの協力のもとでタイ、インドネシア、台湾、ベトナムなどのアジア諸国の日本語学習機関においても同様に日本語書籍の活用とその効果把握のための調査を開始した。なお、これらの調査で活用している日本語書籍については、産学連携事業に基づく協力のもとでブックオフコーポレーション(株)よりご提供いただいた。

（松本安生）

モダリティ研究プロジェクト

(1) 研究会

開催日：2009年11月4日（水）

発表者：辻子美保子（神奈川大学外国語学部教授）

“Case Licensing in Japanese: Similarities and Differences between Clauses and Nominals”

会場：神奈川大学横浜キャンパス 20-312A

(2) 「モダリティ・プロジェクト」ワークショップ2009

—モダリティと統語論—

開催日：2009年12月5日（土）

会場：神奈川大学横浜キャンパス 20-204

発表者：長谷川信子（神田外語大学大学院）

言語科学研究科教授)

「語用論的機能と統語構造：日
本語の CP 領域現象から」

岸本秀樹 (神戸大学大学院人文学
研究科教授)

“Topicalization and Clause Pe-
riphery in Japanese”

上田由紀子(秋田大学教育文化学
部准教授)

「情報構造と統語論の接点：CP
領域の機能」

寺崎英樹 (神奈川大学外国語学
部特任教授)

「スペイン語における推量のモ
ダリティ表現」

佐藤裕美(神奈川大学外国語学部
准教授)

「条件節の時制, モダリティと
話者」

(神奈川大学共同研究奨励助成プロジェクト「統語論及び語用論的アプローチによるモダリティの対照研究」の中核グループとして参加。研究成果の発表と今後の研究の指針について外部の研究者との有益な意見交換の機会であった。)

(佐藤裕美)